



いわき平ロータリークラブ週報

創立 1953.6.18

承認 1953.6.29

<http://iwakitaira-rc.jp/>

■事務局 / 福島県いわき市平字白銀町 4-13 不二屋第二ビル2F

(0246) 25-3000

■例会場 / いわきワシントンホテル椿山荘

(0246) 35-3000

■例会日 / 毎週木曜日 p.m.12:30 ~ 13:30

会長：松崎 浩 幹事：野沢 達也 発行：会報・広報委員会

第 2998 例会 (28号) 2016 年 2 月 4 日 (木) 晴

国際奉仕委員会担当卓話SPEECH

明治を駆けた麦飯男爵 ～高木兼寛の生涯～

いわき明星大学学長 山崎 洋次 会員



私は、いわき明星大学に来るまで東京慈恵会医科大学にいました。卒業もしたのですが、その創始者である高木兼寛先生(1849～1920年)についてお話ししたいと思います。

高木先生は、4つの大きな業績を残しました。よく知られているのは死病と恐れられていた脚気の予防・治療法を確立したことです。さらに、無料でかかれる施療病院を設立。東京慈恵会医科大学の創設。そして、日本で初めての看護婦教育所を創設しました。

生まれたのは嘉永2年、日向国(現宮崎県)の薩摩藩士の家でした。ただ、決して裕福でなく父は大工などをしていたそうです。慶応2年、17歳の時から鹿児島島の蘭方医、石神良策の下で医学を学びました。明治元年、19歳で戊辰戦争に薩長軍の軍医として従軍しました。奥州に攻め入った際は、平潟に上陸して磐城平城、さらに会津へと進軍しました。当時は平の性源寺に奥羽州出張病院が設けられ、軍医団の一人として治療に当たりました。

戦争が終結し、江戸で軍医団の解散会が開かれた時、薩摩の医術は他藩に劣っていると指摘されたことに発奮。「必ず自分がこれを挽回し、威信を取り戻してみせる」と決意したそうです。

明治2年に薩摩へ戻り、開校した鹿児島医学校に入学。3年後に23歳で上京して海軍に入ります。明治政府の中樞を担う薩摩藩出身ということもあり、軍医としてトントン拍子の出世をしました。明治8年、英国セント・トーマス病院医学校へ留学します。5年間の留学中に極めて優秀な成績を残し、13の優秀賞・名誉賞を受賞しました。このセント・トーマス病院は、ナイチンゲールが看護婦養成施設を開

いた所で、その後、日本最初の看護婦教習所を開設することにもつながります。

帰国してから明治14年に同志とともに医師養成所の「成医会講習所」を設立し、翌年には施療病院の有志共立東京病院(東京慈恵会医科大学の前身)を開設しました。明治16年には明治天皇に拝謁し、海軍兵の脚気予防対策を奏上します。この脚気の研究が最高の功績なのですが、それだけ当時は脚気が深刻だったようです。

脚気は、ビタミンB1の欠乏によって心不全と末梢神経障害をもたらす疾患です。下肢のむくみや、しびれが起きることから脚気の名で呼ばれるようになりました。江戸時代には「江戸患い」と呼ばれるほど江戸にいる上層武士らがかかりました。これは、地方では雑穀などを食べていたのが、江戸では精米された白米を食べる習慣が広まったため、ビタミンB1不足になったということです。

高木先生は脚気の原因を探るため、海軍の中で生活習慣と発生状況を調べました。そして、衣類や生活空間、気温などは関係ないが、階級によって囚人、水兵、下士官、士官の順で罹患(りかん)が低くなる。これは海軍の食費の違いで、上の者は贅沢な食事をできるが、下は白米に漬物くらいだったのが影響したのではとし、食事に原因があると考えました。海軍ではパン食に代えるなど栄養面の改善をしました。

このように当時、海軍は脚気の原因を栄養説としたのが、陸軍の中心だった東京帝大の医師らは感染説を唱え激しく対立しました。特に森林太郎つまり森鷗外は、しんらつに高木批判をしたそうです。ですが、日清、日露の両戦争で陸軍は脚気のため相当な戦死者を出しました。

明治28年に有志共立東京病院内に看護婦養成所を開設します。かつての留学先にあったナイチンゲール看護婦学校に倣ったものでした。余談ですが、いわき明星大も平成29年4月に県内2番目の4年制看護学部を開設します。

高木兼寛先生の生きざまは、平成元年にサンケイ新聞に連載された「白い航跡」(吉村昭著)で紹介されています。作者は連載前に、いわきにも取材に訪れたそうで、単行本にもなっていますので、興味のある方はぜひご一読ください。



2015～2016年度
国際ロータリーのテーマ

「世界へのプレゼントになろう」

Be a gift to the world

「出席はロータリアンの3大義務の1つです」

司会：野沢幹事

国歌斉唱・ロータリーソング（我等の生業）・ロータリーの目的（鈴木弘康会員）・四つのテスト（鈴木稔会員）

鈴木弘康会員



鈴木稔会員



◆来賓・来訪ロータリアンの紹介

企業交代により入会予定の㈱いわき丸水社長の志賀康朗様

★ 結婚祝



新田 俊彦さん
(2月11日)



有賀 行秀さん
(2月13日)

★ 誕生日祝



郡 二三子さん
(2月3日)



佐々木 芳弘さん
(2月5日)

ハッピーバースデーソング斉唱

◆会長挨拶ならびに報告



皆さんこんにちは。俳句の季語の一つに「花」があります。春の季語になるんだそうです。夏や秋にも「花」はいろいろあるだろうと思いますが、単に「花」とだけ俳句に使った場合には「桜の花」を指すのだそうです。それで春の季語なのです。

某テレビ局の日本人の「好きな季節」調査では「春」がダントツで1位だそうです。日本人の春を迎える喜びには、ひとしおの感があるようです。

さて、きょうは2月4日「立春」です。その前日、きのうは節分でした。旧暦では大晦日に当たり、豆をまきながら「厄を払って福を招く」。この一年を締めくくる行事をして、古来より人々は新春を迎えてきたわけです。

昔の人たちは、寒さは極まっていますが、もう地中では新しい「芽」が生まれ始めているのを感じたり、枯木にも新しい芽の息吹を感じたりして、そんな感覚をも「春」の季節感でとらえ、桜の「花」をめでることを楽しみに、日々の暮らしを営んできたのでしょうか。

◆幹事報告

- 三春RC、佐久間英一ガバナーエレクトよりハガキが届いています。
- 勿来RC、いわき平中央RCより2月プログラム予定表が届きました。
- 第5回日台ロータリー親善会議の案内が届きました。

委員会報告

◆出席委員会（仲沼之博委員）

例会日	基本会員数	出席者	メンバー数
2月4日	49名	29名	—

◆ロータリー財団委員会（坂本佳友副委員長）

松崎浩さん、松崎倫久さん、飯野光世さん。以上3件

◆米山記念奨学会委員会（菊田政寛委員）

松崎浩さん、山崎洋次さん、飯野光世さん、菊田政寛さん。以上4件

◆雑誌委員会（松崎倫久委員長）

○ロータリーの友2月号「見どころ読みどころ」紹介
縦組 表表紙 日本の伝統を感じさせる家屋の囲炉裏、格子窓から射し込む光が郷愁を誘います。
横組 34～35ページ 「よねやま、から広がる新しい世界「モンゴルからやって来た弟」

◆スマイルボックス委員会（児玉武彦副委員長）

♥松崎浩さん（山崎学長卓話よろしくお願ひします）
♥佐々木芳弘さん（誕生日祝ありがとうございます）
♥郡二三子さん（誕生日はうれしいのですが年が増えるのはいやですね。昨日は平中央RCのプログラム送信してしまいました、大変失礼致しました。年をとるとはこういう事です）
♥新田俊彦さん（結婚祝ありがとうございます）
♥有賀行秀さん（結婚祝ありがとうございます。山崎学長卓話よろしくお願ひします）
♥石井隆幸さん（昨年末より欠席続き申し訳ございません。これから、なるべく出席できるよう努力します）
♥山崎洋次さん（入会后、2回目の卓話を担当いたします。よろしくお願ひいたします）
♥吉田仁平さん（山崎学長の卓話楽しみ、次回より志賀康朗さんが入会します。若さに期待しましょう）
♥飯野光世さん（立春大吉、山崎さん卓話楽しみにしています）
♥青木喜久男さん（山崎さん、卓話よろしくお願ひします）
♥松崎倫久さん（山崎国際奉仕委員長の卓話よろしくお願ひします）
♥黒須幸雄さん（山崎さん卓話楽しみにしております）
♥竹谷金浩さん（山崎学長、卓話を楽しみにしております。よろしくお願ひいたします）
♥関口武司さん（山崎先生、卓話宜しくお願ひします）
♥児玉武彦さん（山崎洋次さん卓話よろしくお願ひします） 以上15件

★本日の例会案内 2月18日（木） 12:30～

いわき分区 中田博道ガバナー補佐来訪

お食事メニュー＝チキンソテー 温野菜添え、鰯あら煮

★次回の例会案内 2月25日（木） 18:30～

3000回記念例会

お食事メニュー＝松花堂弁当